
桜

斬滅のザン＆食べられる野草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜

【著者名】

N5067S

【あらすじ】

斬滅のザン&食べられる野草

学校には、桜が多い。

(前書き)

この小説は、食べられる野草の作品です。

風に散つて地面に落ちた後も、桜の花は変わらず綺麗だ。

人々に踏まれ、汚れて地に貼り付いても、咲き誇っていた頃の艶やかさを失つていない。

散つた後の花が綺麗なら、当然今なお咲き誇る花は言つまでもなく美しい。

通りかかる人は皆、頭上の桜を見上げていく。

春一番の風が吹いた。

桜吹雪とはよく言つたものだ。

視界一面がピンク色に染まるくらい、それは吹雪のように舞い踊つている。

まさに絶景としか言いようがない。

わざわざ花見に行かなくても、学校に行けばこの絶景を存分に味わえるのだから、学生でよかつた、なんて思う。こんな時に入学して来た一年生も、自分たちの明るい未来を指し示しているようで、気持ちがいいだろう。

春の風は、地面に落ちている花びらまで巻き込み、舞い上がりせた。

桜の花は、踊りながら辺り一面に飛んでいく。

せつかく一箇所に集めた花も、あつとこいつ間に散らばってしまつた。

先生、ここでの掃除は桜が全部散つてからこよつけよ。

掃いても掃いても風で飛び、追い打ちをかけるように頭上から尚も舞い落ちてくる桜の花を眺め、俺は竹箒を投げ捨てた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5067s/>

桜

2011年10月7日16時12分発行